

第71回全三井・全三菱テニス大会が11月23日、八王子市の東京海上日動多摩総合グラウンドで行われた。当日は全三井・全三菱の両チーム合わせて男女約100名の選手が集まった。全三井からは三井住友海上やエームサービスなど日本リーガーの実業団選手も出場。ダブルス25試合の結果、全三井は8勝17敗の大差で全三菱に敗れ、5連敗を喫した。通算成績は全三井の27勝36敗(中止8)。

全三井、テニスで5連敗

全三菱が17勝8敗で圧倒

企業グループの早慶戦にも例えられるスポーツの全三井・全三菱大会。テニスは1955年からスタートし、今年で71回を数える。一般男子13、ベテラン(45歳以上)3、シニアベテラン(55歳以上)3、グランドベテラン(65歳以上)3、女子3の5クラスのダブルス計25試合を行い、13勝以上したチームを勝ちとす。試合は2タイブレークセット・ファイナルセット10ポイントマッチタ イブレード・ノードパ ンテジ方式。全三井は三井系テニスクラブ・浜田山ローンテニス倶楽部の栗岡威会長(元三井住友海上副社長)を代表とし、三井住友海上、エームサービス、三井住友銀行、三井物産、三井不動産、三井E&S、三井化学、大樹生命、ビプロロジ、日本トレーディング(現三井物産プラスチック)からOBを含めた約50名が出場。海上やエームの実業団選手のほか、元早大テニス部主将の木元風哉選手(不動産)や元慶大テニス部主将で新人の下村亮太朗選手(物産)なども加わり、必勝の態勢で臨んだ。全三菱も明治安田生命や三菱電機の実業団選手をはじめ、東京海上日動、三菱商事、三菱重工、三菱マテリアル、三菱UFJ銀行、三菱UFJ信託、三菱ケミカルなどから実力者を揃えた。全三井は雨天やコロナ禍による中止を挟んで昨年末で4連敗を喫している。開会にあたり、全三井の栗岡代表は「勝敗差はあまり言いたくないが、2050年を目標に勝ち越したい(笑)。コロナ禍以来、中止されていた懇親会も今回から再開されるので、多めに交流し、両グループの発展に貢献してほしい」と呼びかけた。全三井は女子1組が



大会当日は秋晴れに恵まれた



男子の木元・田中組(不動産)



女子の古西・眞鍋組(海上)



シニアベテランの成川・神山組(信託)



①全三井・栗岡代表、④全三菱・牧村代表、⑤全三井・奥山主将



試合結果

全三井 ● ○全三菱
(8:17)

一般男子 (3:10)

- | | | |
|---------------|---|---------------|
| 諱・藤原(海上) | ● | ○田形・矢島(生命) |
| 賀川・脇坂(海上) | ● | ○太田・増成(生命) |
| 沼野・石博(海上) | ● | ○伊藤・佐藤(生命) |
| 木元・田中(不動産) | ● | ○安上・名越(海上) |
| 細貝・矢崎(エーム) | ● | ○鈴木・新井(マテ) |
| 佐々木・下村(物産) | ● | ○菅谷・藤岡(海上) |
| 神原・伊藤(海上) | ● | ○串間・高山(重工・生命) |
| 加藤・鍛代(化学・エーム) | ○ | ●細江・星村(生命) |
| 本城・森(銀行) | ● | ○志賀・家邊(電機) |
| 藤原・村松(銀行) | ○ | ●田元・山田(生命) |
| 岡村・松田(信託) | ○ | ●佐藤・高橋(銀行) |
| 榎本・湯原(大樹) | ● | ○丸岡・西田(信託・商事) |
| 福原・高村(海上) | ● | ○青木・西村(電機) |

ベテラン (0:3)

- | | | |
|--------------|---|------------|
| 北島・矢野(海上・銀行) | ● | ○阿部・田所(銀行) |
| 辻・岡部(海上) | ● | ○田村・東(商事) |
| 立花・佐原(エーム) | ● | ○山岸・大辻(銀行) |

シニアベテラン (1:2)

- | | | |
|---------------|---|---------------|
| 斎藤・大矢(不動産・物産) | ○ | ●広瀬・長谷川(ケミカル) |
| 佐々木・奥山(海上・ビブ) | ● | ○山室・岡田(海上) |
| 成川・神山(信託) | ● | ○高橋・左藤(生命) |

グランドベテラン (2:1)

- | | | |
|---------------|---|---------------|
| 田中・小林(銀行・信託) | ○ | ●加藤・安福(電機) |
| 檜崎・黒住(E&S・銀行) | ● | ○東城・牧村(海上・重工) |
| 赤毛・野下(日トレ・銀行) | ○ | ●海老名・阿部(海上) |

女子 (2:1)

- | | | |
|------------|---|------------|
| 田中・鈴木(エーム) | ● | ○清水・猪瀬(生命) |
| 加治・飯田(エーム) | ○ | ●村橋・下地(海上) |
| 古西・眞鍋(海上) | ○ | ●竹本・中村(生命) |

体調不良により欠場したため、1試合が不戦敗に。1敗のバイハンドから始まった。全三井は序盤、グランドベテランの赤毛・野下組(日トレ・銀行)、シニアベテランの斎藤・大矢組(不動産・物産)、女子の古西・眞鍋組(海上)が勝ち星を挙げ、8試合終了時点で3勝5敗と全三菱にリードを許す。中盤までに挽回したい全

三井は一般男子で加藤・鍛代組(化学・エーム)、藤原・村松組(銀行)、岡村・松田組(信託)、女子で加治・飯田組(エーム)、グランドベテランで田中・小林組(銀行・信託)が勝利するも、白星は25試合中、8試合のみ。もともと試合数の多い一般男子は3勝10敗と大敗を喫し、全三菱が17勝8敗で5連勝を遂げた。全三井は接戦で競り負けており、タイブレークやファイナルセットで7試合を落とした。一般男子第1複の諱・藤原組(海上)は敗れたものの、田形・矢島組(明治安田生命)とファイナルセットまでもつれる日本リーグ同士のハイレベルな熱戦を演じ、観衆を沸かせた。終了後はクラブハウスで2018年以来となる懇親会が開催され、両グループはテニスを通じて親睦を深めた。全三菱・牧村祐一代表

(重工OB)「コロナ禍を挟んで差が開いてきたが、最多連勝記録を調べると1977年から全三井が6連勝している。私たちも6連勝に挑戦したい」全三井・奥山直哉主将

井不動産(同)が出場。2ブロックに分かれて予選が行われ、上位チームは来年2月の決勝トーナメントに進出できる。



早大、亜大のぶっつけ本番ペア

エームサービス 鍛代 悟

三井化学 加藤 哲太郎

さん



一般男子で全三井の貴重な勝ち星を挙げた加藤さん(39)「写真奥」と鍛代さん(33)「笑」と話す。相手は早稲田大学、鍛代さんは亜細亜大学のテニス部出身だ。昨年もそれぞれ1勝ずつ挙げており、今回は初めてペアを組んだ。ダブルスペアは試合当日の発表のため、練習なしのぶっつけ本番。加藤さんは「(実業団の)鍛代さんは上手い人とかわかっていて、今日は調子が良かった。期待される。」

写真で振り返る日本橋

2000年代から変遷辿る



①2002年と2025年の中央通りを写真で比較、②船着き場ができた前の「滝の広場」、③首都高を見下ろすサッポロビールの広告看板

日本橋の歴史を振り返る写真展が11月25日から5日間、日本橋三越本店などで開かれた。主催は大学生で構成される日本橋学生工房。地元町会や名橋「日本橋」保存会と連携しながら日本橋の歴史や催事に参加しており、学生の立場から日本橋の街づくりを支援している。開催期間中は日本橋学生工房で活動した歴代の大学生たちが残した日本橋の写真展を展示。2000年代から現在に至るまでの日本橋の今昔に大勢の人が足を運んだ。代表を務める黒部真由さん(一橋大学大学院社会学研究科)は、「日本橋はたくさんの人たちの思い出の場所であり、語り継がれるポテンシャルが高い。京橋で働いていた私の祖母も日本橋の思い出をよく語り、時を超えて同じ場所で結ばれている気がする。写真展を通じて江戸時代から続く日本橋の人の営みや地縁を感じてもらえれば嬉しい」と話した。

訂正 11月27日号5面に掲載した三井系施設のイルミネーション点灯記事で、銀座三越が「12月9日から」とあるのは「12月6日から」の誤りでした。訂正してお詫言します。